地域生活を支える
社会福祉法人
第262回

社会福祉法人 以和貴会［鹿児島県鹿屋市］の試み

買い物支援、認知症ケア、人材育成 地域福祉の要として課題に向き合い 高齢者の暮らしを支える

深刻な高齢化が進む地域で、無料の買い物支援を通じて独居高齢者の生きがいを創出し、地域サロン活動の移動支援、認知症がある高齢者が暮らしやすい地域づくりに取り組むほか、地域の未来に向けて次世代の福祉人材の育成にも力を尽くす。

以和貴会

法人名
社会福祉法人 以和貴会

本部住所
鹿児島県鹿屋市串良町細山田5902番地3

URL
https://iwakikai.org/

理事長
西丸 晴彦

事業内容
- 特別養護老人ホーム
- 短期入所生活介護
- 通所介護
- 訪問介護
- 小規模多機能型居宅介護
- 認知症対応型共同生活介護
- 地域密着型特定施設入所者生活介護
- 居宅介護支援

個室と2人、3人、4人の多床室を備える特別養護老人ホーム以和貴苑。一人ひとりのご利用者が、それぞれのペースで安心して暮らせるよう、寄り添いながら支援することを大切にしている。

睡眠の質や状態をモニタリングする機器をはじめ、ICT機器を積極的に活用。一人ひとりの状態を把握しやすくなり、より細やかな支援につながっている。

社会福祉法人 以和貴会の沿革

鹿児島県鹿屋市で40年以上にわたり高齢者福祉事業を行う「以和貴会」の名前は、十七条憲法の筆頭に掲げられた「和を以て貴しと為す」という聖徳太子の言葉が由来となっている。昭和50年代、大阪府職員として働いていた初代理事長は、当地に息づく日本の社会福祉事業の起源とされる、聖徳太子の困窮者救済活動を現代に受け継ぐ団体「四天王寺福祉事業団」の理念に深く感銘を受けた。

四天王寺の管長から直々に「以和貴会」の名を授かり、故郷の鹿屋市で昭和59年に社会福祉法人を立ち上げた。以来、地域のニーズに応える形で特別養護老人ホーム、デイサービスセンター、認知症老人グループホームと事業を拡大してきた。事業所は串良地区内の2か所にある。

公益事業として介護福祉士養成事業所も運営し、次世代の人材を育成している。2026年6月には鹿児島市に定期巡回・随時対応型の訪問介護看護事業所を開設した。

社会福祉法人 以和貴会の 理念と方針

［理念］

「和を以て貴しと為す」

［職員倫理要綱］

1. 以和貴会職員倫理要綱

以和貴会が設置する各施設は、地域社会の支持を受けて高齢者が地域で安心して生活を送ることができる拠点となることを使命とします。

2. 公平・公正な事業運営の遵守

以和貴会で働く私たちは、高齢者の生活と人権を擁護するため、自己点検を強化し公平・公正な開かれた事業運営に努めます。

3. 利用者の生活の質の向上

以和貴会で働く私たちは、利用者一人ひとりのニーズと意思を尊重し、可能性の実現と生活の質の向上に努めます。

4. 従事者の資質・専門性の向上

以和貴会で働く私たちは、常に誠意をもって質の高いサービスが提供できるよう研修・研究に励み、専門性の向上に努めます。

5. 地域福祉向上

以和貴会で働く私たちは、地域社会の一員としての自覚を持ち、保健・医療等関係分野との連携を強化し、地域福祉の向上に努めます。

6. 国際的視野での活動

以和貴会で働く私たちは、諸外国との交流を促進し、国際的視野にたち相互の理解を深め、福祉の推進に資するよう努めます。

6名の外国人技能実習生が活躍。受入れのきっかけは、地域貢献事業の一つであるサロン送迎を通じて、ベトナム人技能実習生との交流が生まれたことだった。

以和貴会の試み
Case 1

高齢化が進むなかで町内会・民生委員とともに地域のつながりの力を深める

地域のグラウンドゴルフ振興会とともに実施するグラウンドゴルフ大会では、以和貴会のご利用者も参加。地域の方がたと交流を重ねる、楽しい時間になっている。

以和貴会が拠点とする鹿屋市串良町は、深刻な高齢化が進む地域。子ども世代と離れて暮らす独居高齢者が多く、最寄りの商店まで車で15分ほどかかるなど移動に不便を感じる方も少なくない。地域で長年続いてきたグラウンドゴルフ大会では、前年と比べて参加者が半数になるなど、健康に体を動かせる人が目に見えて減ってきている。そうした厳しい現実のなかにあって、「串良町といえば以和貴会」といわれるほど、法人の存在感は地域に深く根付いている。

その信頼の背景には、古くからていねいに築いてきた町内会や民生委員との強いつながりがある。法人職員が民生委員の定例会に参加するなど、日頃からこまめに顔を合わせて情報交換できる体制が整っており、地域の変化や住民の困りごとをいち早くキャッチできる関係性が育まれてきた。

地域のイベント運営への協力も積極的に行っている。串良グラウンドゴルフ協会と協力して主催する大会では、開会式・閉会式の進行や賞品の準備を法人が担当する。残念ながらコロナ禍をきっかけに休止しているが、以和貴会が主催する大規模な夏祭りはかつて毎年開催され、法人のご利用者と地域住民が一緒になって笑顔で楽しむ恒例行事となっていた。企業の協賛で景品が用意され、毎回1,000人もの人が集まる盛大なイベントは、いまも多くの地域住民の記憶に残っている。こうした長年にわたるかかわりの積み重ねが、法人への深い信頼と親しみを生み出してきた。

以前は地域と法人のパイプ役を担う生活支援コーディネーターを配置していたが、現在は事業が終了し、地域活動に専従できる職員の確保が難しい状況が続いている。それでも、困りごとがあれば気軽に相談できる身近な存在であるという意識は変わりない。「必要な人に確実に情報が届くよう、町内会や民生委員との連携をさらに強めていきたい」と法人事務局長の原之園 誠氏は語る。

高齢化と人口減少が加速するなかでも、安心して暮らしていけるように地域に寄り添い続けている。

コロナ禍以前に地域住民も参加しにぎやかに開催していた、以和貴会の夏祭りの様子。地域の方がたとの深いつながりを育んだ思い出の行事として、語り継がれている。

開催方法を見直し、園内で開催されるようになった夏祭り。ヨーヨー釣りや金魚すくい、屋台風のおやつなどを楽しみながら、ご利用者の笑顔があふれる時間となっている。

以和貴会の試み
Case 2

誰でも無料で利用できる買い物支援「ドライブサロン」

串良町白寒水公民館で、社会福祉協議会の協力のもと「したそっいき生き甲斐」の出発式を行った際の様子。地域の方がたに加え、社協とともに参加していたベトナム人技能実習生との交流の機会にもなった。

外出手段がなく日々の買い物に困る高齢者をサポートしているのが、買い物支援事業「ドライブサロン」だ。町内会長からの熱意ある要望をきっかけに、社会福祉協議会のコーディネーターと連携しながらスタートした。

鹿屋市内で実施されているドライブサロンには、福祉施設が協力する「生活支援型」「生きがいづくり型」と、地域ボランティアが送迎を行う「ドライブサロンプラス」の3種類がある。以和貴会は、生活支援型のドライブサロンに協力している。

週に一度、登録者は公民館に集合し、法人の送迎車が希望に応じて2か所ほどの店舗をめぐる。民生委員も同行し、連絡なく姿を見せない登録者がいれば安否確認のために自宅を訪ねることもある。利用条件は設けておらず、費用負担もなく誰でも無料で参加できる。登録者の多くは独居の高齢者で、週に一度の外出を心待ちにしている方が多い。何を買うかあれこれ考えながら当日を楽しみにする参加者の姿に、生きがいを感じてもらえていると実感している。

運転は小規模多機能型居宅介護事業所の職員が担うが、人材不足は常に課題だ。人手が確保できず他地域からの依頼を断らざるを得なかったこともある。一方で、対象地域を限定していると人口減少に伴い利用者が徐々に減少するという現実もある。取組を開始した平成29年当初は14人ほどいた参加者はいまでは半数ほどで、広域での事業展開を考えなければならない時期に来ている。それでも、生活の利便性の向上だけではなく、健康状態のチェックや安否確認を兼ね、そして何より高齢者の大きな楽しみとなっているこの事業を、可能な限り長く続けていきたいと考えている。

また、このドライブサロンで培った送迎の仕組みは別の形でも活用されている。

鹿屋市社会福祉協議会が展開する高齢者向けレクリエーション事業「したそっいき生き甲斐」（サロン名）でも交通手段が課題となっていた。ドライブサロンの実践により主催者から要望を受けて送迎の協力が実現した。一つの取組をさまざまな形で地域に広げていく、そんな柔軟な姿勢が法人の強みとなっている。

15分ほどの道中では話が弾み、車内は楽しい空気につつまれる。

買い物先では、参加者同士が会話を弾ませながら、それぞれ商品を選ぶ。何気ない日常のひとときが、参加者の楽しみになっている。

以和貴会の試み
Case 3

未来につなげる地域全体の福祉を底上げする人材育成

以和貴会の介護福祉士養成事業。近年は、働きながら資格取得をめざす通信課程の受講者が多く、それぞれの学びを支えている。

以和貴会では介護福祉士養成事業所を運営し、通学課程と通信課程において実務者研修を実施している。受講者は、キャリアアップを志す法人職員をはじめ、ハローワーク経由の求職者や他法人の職員、国家資格の取得をめざす外国人技能実習生など多岐にわたる。講師は以和貴会の職員と他法人から招いた職員が務める。実習先を自分で選べる仕組みになっているため、就職を希望する受講者にとっては各法人の雰囲気や特色を直接知ることができる貴重な機会にもなっている。修了後の進路はさまざまで、以和貴会に就職する人もいれば、他法人に就職する人、資格を活かして別の道へ進む人もいる。近年は通信受講生が多数を占めるようになっており、通学を希望する人が減少傾向にあることが課題となっている。

地域の人材確保に向けた取組として、鹿屋市が設けている「介護人材確保ポイント事業」にも参加。介護施設などでボランティアとして活動しポイントを集めると、電子マネーまたは現金に交換できる制度だ。以和貴会では食事の配膳や清掃、ご利用者の話し相手といった業務を体験してもらい福祉の現場を身近に感じてもらうことを大切にしている。幅広い年齢層のボランティアを受け入れ、福祉への理解を地域全体に広げていきたいと考えているが、取組の認知度はまだ十分とはいえず、より効果的な広報の方法を検討している。

地域の中学校や特別支援学校の職場体験の受入れにも積極的に取り組んでいる。特別支援学校の生徒にはシーツ交換などの仕事を体験してもらい、その経験が障がい者雇用へとつながることを期待している。また、職場体験をきっかけに、数年後に法人の採用面接に訪れる生徒もいる。地道にていねいに受け入れることが、将来の人材確保につながっていることを日々実感しているという。

「さまざまな福祉体験を提供することで、地域の未来を担う福祉人材を育て、地域に貢献していきたい」と原之園法人事務局長は語る。養成・体験・就労へとつながる一貫した仕組みづくりを通じて、地域の福祉を支え続けている。

地元の小学生とご利用者が折り紙や手遊びなどを通して交流する機会を設けている。

踊りを通じて交流を深める訪問ボランティア。ご利用者からの「今日は楽しかった」という言葉に毎回元気をもらっているという。

以和貴会の試み
Case 4

認知症がある方の地域生活を支える徘徊模擬訓練や相談事業

串良町大迫地区で実施した徘徊模擬訓練の様子。町内会や警察、近隣の介護事業所など、さまざまな関係団体から89名が参加し、地域全体で対応をシミュレーションした。

近年、以和貴会がとくに力を入れているのが認知症サポートだ。鹿屋市では介護事業所などで働く職員を対象に、認知症の専門知識をもつ「地域包括ケア推進サポートワーカー」を養成している。サポートワーカーが所属する事業所には「オレンジのまど」という相談窓口が設けられ、オレンジカフェなども開催されている。

以和貴会でも居宅介護支援事業所にオレンジのまどを開設。認知症予防に関心のある方や、どこへ相談すればよいかわからない方が気軽に立ち寄れる場所を提供している。サポートワーカーは市内で行われる認知症啓発セミナーや地域サロンへの参加、小学校での認知症講座の講師など、地域に根ざした啓発活動にも積極的に取り組んでいる。

なかでも特色ある取組が、町内会や警察などの関係団体と連携して行う「声かけ訓練」だ。認知症の方が一人で外出し行方不明になったと想定した模擬訓練で、串良町大迫地区で実施した際には89人が参加した。認知症の方がどこを歩き、どんな行動をとるのか、どのように声をかければよいのかをシミュレーションすることで、地域全体で見守る意識を高めている。

「オレンジのまどやオレンジカフェは、認知症の方が地域で安心して過ごしていくための地域共生と安心の拠点です。当法人の生活支援はご利用者が自宅で元気に暮らすための“橋渡し”だと考えています」(原之園法人事務局長)。

さらに独居高齢者が増え続けるなか、24時間のケアニーズに応えるための取組も続く。2026年6月に鹿児島市内で定期巡回・随時対応型の訪問介護看護事業所を開設した。訪問時間や回数に縛られない柔軟な支援が可能となり、5分だけ訪問して服薬を見守るといった細やかなケアが実現できる。医療的な問題が生じた際は連携する訪問看護事業所につなぎ、たとえ独居であっても住み慣れた自宅で長く暮らせる地域社会をめざしている。

高齢化と人口減少が急速に進む地域において、住民の細かなニーズに常に耳を傾け、できる限りのアイデアを出し合いながら、専門性をもって地域を支え続けている。

鹿屋市在住の方であれば、誰でも無料で認知症に関する相談ができるオレンジのまど。オレンジカフェとしてイベントに参加。

オレンジのまどでは、小学生向けの認知症サポーター講座も出張授業として実施している。